



# 最優秀賞受賞にあたって

広島県福山市培遠中学校 しんたにようこ  
新谷陽子

この度は、このような大きな賞をいただき、驚きとおそれおおい気持ちでいっぱいです。まずは、私の小さな日々の取り組みにスポットライトをあてていただいたことに心より感謝申し上げます。この受賞のお知らせを受けた後、私の脳裏に浮かんだことは、この学習を一緒に取り組んできた多くの生徒たちの笑顔でした。中でも古語を用いて自分の思いを表現する「私の枕草子 あなたの枕草子」の授業では、自分の思いと古語がつながったときの、あの言葉が染み入る瞬間を今でも忘れることができません。今回の受賞は、私の実践だけではなく、その実践を意味あるものにしてくれた私の教え子たちの頑張りを表彰していただけたものと思っています。

私は昨年度まで、バンコク日本人学校に勤務していました。日本を出るまでは、日々の教育活動の中でグローバル化をなかなか実感できない日々が続いていました。しかし、実際に海外に出てみて日本の教育を見てみると日本の教育のすばらしさ、質の高さを痛感することになりました。そのようなことを感じつつ、私は国語教育を通して日本の文化、言語文化を継承していく日本人の育成が必要不可欠ではないかと強く認識するところとなりました。

私はこの4月に帰国し、東京書籍の方から、この実践論文のお話を伺いました。私が実践してきたことをここで一度まとめ直すことで、これからの自分の指導の道筋が立てられるのでは

ないか。そして、グローバル化が求められている現代社会だからこそ、古典から学ぶことが意味あるものではないか。そのための指導方法を整理してみる価値はあると思い、この論文作成に取り組みました。論文を見ていただくと分かるように、私の実践は何も特別なことをしているとは思っていません。この実践を読んだ先生方が、すぐにでも手をつけられそうな身近な実践ばかりです。私自身が指導者である以前に一人の読み手として教材に向き合ったとき、「面白いな」とか、「なぜ？」と思ったことをいかに子どもたちに伝え、指導していくか。それを形にした取り組みです。

古典に親しむ生徒の育成は、これからも私の終わりなきテーマになることでしょう。今回の論文も指導法の視点から見れば、まだまだ未完成です。生徒たちの発見と驚きが詰まった古典学習指導、生徒が自ら学び、面白さを体感できる授業の創造にこれからも尽力していく所存です。

最後になりましたが、この機会を与えてくださった東京書籍中国支社の皆さま、そして、この研究を数年間に渡り行わせていただいた福山市立培遠中学校、福山市立駅家中学校、そしてバンコク日本人学校の皆さま、そして私の全ての教え子たちに感謝を申し上げます。ありがとうございました。